共にしあわせ産みだす日本共産党
市議団ニュース
第１７５５号
２０１５年6月7日
日本共産党根室市議団
根室市宝林町４－２０３
TEL ２３－６０２３
FAX ２４－１６８４

厚床小学校新校舎を視察

根室市議会文教厚生常任委員会と委員外議員有志は５月２８日（木）、新しく建てられ今年度から供用開始となった厚床小学校を視察しました。日本共産党からは、鈴木一彦議員と文教厚生常任委員の橋本竜一議員が参加しました。

工夫を凝らした採光が特徴的な多目的ホール

老朽化した厚床小学校を取り壊し、厚床中学校の隣に立て直したものです。

校舎内は、全体的に紀の温かみを感じる空間となっています。また、各かつて〝馬産地〟として栄えていたことをあらわすために、普通教室は馬の形に、特別教室には蹄鉄がデザインされています。

正面玄関を入ると、多目的ホールとなっていますが、朝日を採り入れるために右手側（東側）が全面ガラス張りになっており、また、吹き抜けからも自然光が入る仕組みになっています（写真参照）。2階への階段の上り口が小規模なステージとなっていて、全校集会や合唱発表会などを行うことができるそうです。

広々とした空間や、内外の大きなガラス窓など、全体として開放的で、子どもたちに教職員の目が届きやすい仕組みになっていると感じました。

「小中併置」というあり方について

今回の工事によって、厚床小学校は、厚床中学校との「小中併置」という形式になります。

小中併置とは、同じ敷地内に小学校と中学校を隣接（体育館でつながっている）させ、校舎は別ですが、体育館とグラウンドは共有する、というものです。厚床の場合、中学校の体育館が老朽化しているため、現在、新体育館を建設中です。

根室市内では、海星、歯舞に続き3校目となる「小中併置」。教育委員会は、「小中の連携が密になる（小中一貫教育の実践）」などのメリットをあげていますが、これまでの議会議論で、デメリットも明らかになっています。

体育館やグラウンドが共有となっていますが、少年団と部活、あるいは昼休みなどに、体格差がある小学生と中学生が一緒に利用したときの安全性確保の問題があります。

職員配置では、一般的には1校に1名ずつ配置される校長と養護教諭等が、小中兼務となります。養護教諭は、子どもたちの心と体をケアする大切な役割を担っています。特に、中学生という子どもから大人へと成長する多感な時期に、養護教諭と「保健室」という存在は重要です。小中併置校では、1名の養護教諭が同時に小学生と中学生を対象としなければならず、果たして望まれる十分なケアができるのかどうか、疑問が残ります。

根室市における今後の学校のあり方について

幌茂尻小と和田中を併置にした海星小中、半島地区の4小学校を統合して歯舞中学校と併置とした歯舞小中、昆布盛小を統合した落石小、そして今回の厚床併置により、いわゆる郡部地区の学校の〝再編〟はひとまず区切りがついたといえます。あとは市街地域。

日本共産党は、学校の〝再編〟を考えるときに、単に子どもの人数が減少したので統合・合併とするのではなく、学校と地域コミュニティのあり方、少人数学級の有効性、根室市全体の人口問題（学校の統廃合によって教職員が減れば、そのまま市の労働人口の減少につながる）等々、多面的な角度で検証し、子どもたちも含めた、大多数の市民の支持を得られるような方向性を見出すべきと考えます。今後の議論が重要です。